

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究名】

緩和ケアチーム介入患者に対する薬剤師の薬学的介入と医療経済学的評価に関する研究

【目的】

これまでに、多職種から構成される緩和ケアチームが、がん患者に対して介入することで生存期間が延長することは報告されている(*N Engl J Med*, 363(8), 733-742, 2010)が、緩和ケアチームにおける薬剤師の役割を評価した報告は少ない。今回、愛媛大学医学部附属病院に入院し、緩和ケアチームへ紹介された患者さんを対象に、緩和ケアチームの専任薬剤師が行った薬学的介入事例について、その医療経済効果を評価することで薬剤師の役割について検討する。

【研究意義】

緩和ケアチームが介入する患者さんに対する専任薬剤師の薬学的介入(アウトカム)およびその医療経済効果を評価することで緩和ケアチームにおける薬剤師の役割を明確化し、さらに積極的な服薬指導に繋げることで患者さんの QOL 向上に繋がると考えられる。さらに、愛媛大学医学部附属病院において他職種から構成される緩和ケア チームの院内・外に対する認知度向上が期待でき、より早期からの緩和ケアの介入に繋がることが期待される。

【研究内容】

対象患者:緩和ケアチームへ依頼(紹介)があった入院患者

調査方法:電子カルテ(IBM)を用いた後方視的調査

調査項目:年齢、性別、病名歴、薬歴(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、制吐剤、緩下剤の併用有無と薬品名、用法・用量、投与日数)、検査歴(AST・ALT、血清 Cr 値、Ccr、eGFR)、身体症状(疼痛、悪心・嘔吐および排便状況、眠気、呼吸回数等)、介入の経緯(発端や原因)、介入の結果(経過)

統計解析:参考文献や安永らの方法に準じて各薬学的介入から医療経済効果を算出

参考文献:*J Pain Symptom Manage.* 2003,25(3):276-283.

J Pain Palliat Care Pharmacother. 2014,28(3):282-293.

J Pharm Policy Pract. 2016,10(2)

【研究期間】

2017年1月～2017年12月の1年間を予定。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者:准教授 田中 亮裕

研究分担者:副部長 飛鷹 範明

薬剤師 安永 大輝、戸田 陽香、守田 麻由

医師 藤井 知美（臨床腫瘍学、緩和ケアセンター）

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

研究責任者:准教授 田中 亮裕

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号:089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp